

平成 25 年度 学校評価実施報告書

領域	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学 校 経 営	(1) 安全・安心な学校 施設・設備の管理保全のため、安全点検を定期的実施するとともに、避難訓練や講演会を実施し、生徒の危険予知能力、危機回避能力の育成に努めた。 「本校生徒は、身の周りにおける危険に注意をはらって生活している」と回答した職員の割合は昨年度の 17.7 %から 10 ポイント減少し、7.7 %となった。生徒、保護者の割合はいずれも 70 %を越えており、職員と生徒、保護者の感じ方に大きな開きがみられる。 本校では、環境健康部を中心として校舎内外の環境整備に取り組んでいるところである。「本校は、校内の環境美化に取り組んでいる」と回答した職員、保護者の割合は、それぞれ、94.3 %、78.7 %であり、「環境美化活動に熱心に取り組んでいる」と回答した生徒は 40 %を下回っている。 (2) 学校行事、部活動 「生徒は、学校行事に積極的に参加している」と回答した保護者の割合は、83.1 %である。職員の平成 23 年度の割合は 40 %、24 年度が 70 %であり、今年度は 94.3 %とかなり高い割合になっている。生徒の行事や部活動の活動状況をほとんどの職員が認めている結果である。しかしながら、「学校行事が楽しい」と回答した生徒の割合は 56.9 %にとどまっていることから、さらに生徒の達成感や充実感を味あわせるための仕掛けが必要である。 「子どもを松戸向陽高校に入学させてよかった」と回答した保護者の割合は、昨年度より 3.3 ポイント増加し 85.2 %であり、「入学してよかった」と回答した生徒の割合は、昨年度とほぼ変わらず 62.8 %であった。この結果から、本校を保護者と相談し、自らの意思で選択・受検し、合格した生徒が増えていることがうかがえるが、生徒の割合がもっと増えるように、学習指導、生徒指導、進路指導を行っていききたい。 「生徒は、生き生きと学校生活を送っている」と回答した職員の割合は、昨年度より 10 ポイント増加し、75.0 %であった。 統合して部活動にも活気が出始め、実績を残す部活動もでてきているが、「本校の部活動は活発である」と回答した職員の割合は、昨年度より 8.5 ポイント増加し、32.7 %となったものの、決して高い数値とはいえない。「生徒は、部活動に充実感を感じている」と回答した職員の割合は、昨年度より 9.4 ポイント増加し 57.7 %、保護者については、2.3 ポイント減少し 41.8 %であった。生徒については、1.1 ポイント減少し 62.8 %であった。 (3) 情報発信 保護者、地域住民、受検生等に学校のようすを知らせるため、行事や学校の出来事等を、ホームページに掲載し、毎日更新することを心がけた。また、校長の考えを伝える校長ブログでも、積極的に情報発信に努めている。「本	(1) 安全・安心な学校 ほとんどの項目で、生徒のがんばりに対する職員の肯定的な評価の割合は増加しているが、「本校生徒は、身の周りにおける危険に注意をはらって生活している」の項目のみ、昨年度より 10 ポイント減少して、7.7 %となった。どのような部分が注意をはらっていないことになるのかについて、職員から生徒に示すべきである。 外部から本校を訪れた方から、「校舎内がきれいですね。」という言葉をいただくことが多い。環境健康部を中心に、環境美化に取り組んでいるためである。今後も、清掃活動やボランティア活動をとおして、生徒の意識を高揚させたい。 (2) 学校行事、部活動 職員のほとんどが、行事に対する生徒の取組を評価しているが、行事を楽しいと回答している生徒の割合が低い。行事に対する取組のすばらしさを生徒に伝えることにより、生徒に自信をもたせたい。 生徒・保護者に、松戸向陽高校に入学してよかった、入学させてよかったと思えるような学校づくりを職員が一致団結して進めていく。そのためには、職員全体で、生徒の実態を把握し、本校生徒にあった、生徒指導、学習指導、進路指導を展開していく必要がある。 部活動の活性化は、本校の今後の課題の一つであるが、実績を残す部活動生徒が増えてきていることは確かである。 (3) 情報発信 職員の多くは、本校が情報発信に努めていると考えている。今後も、更新頻度はいまのペースを維持することにより、ホームページ、校長ブログで相乗効果をあげていきたい。ホームページのスタイルが確立しつつあるので、組織的に運営して

校は、学校の情報を保護者に積極的に伝えて
いる」と回答した職員、保護者の割合はそれ
ぞれ、88.4%、73.0%である。職員全員が1度
は、ホームページをチェックしてほしいと考
えている。また、生徒、保護者でホームペー
ジや校長ブログをみているのは、固定化した
一部に限られていると思われる。700名以
上いる保護者全員が、学校のように気をか
け、ホームページ等チェックしてもらえる
ように、今後も広報活動をしていきたい。こ
れまでは、1日200アクセスを目標として
きたが、今後は、さらに上を目指したいと考
える。

保護者向け。地域向けに、学期にそれぞれ
3回程度、学校だよりを発行した。地域向け
学校だよりは、町会長宅に届け、そこから各
家へ配付していただいている。

管理職が、地域の行事や地区中学校長会等
に積極的に参加し、教育実践の周知を図った。

(4) プリント等の配付・回収

「学校からもらったプリントをいつも保護者
に渡している」と回答した生徒の割合が50%
を下回っている。配付したプリント等は、ホ
ームページに掲載し、ダウンロード可能な状
態にしてあるが、ホームページをみていただ
けないと意味をもたない。

今年度は、冷房装置設置に関するアンケート
や委任状の回収率も高く、保護者向け学校
評価アンケートの回収率も、84.2%と、昨年
度より21.9ポイント増加した。職員の関わり
方次第で、生徒の提出状況は大きく変わるこ
とを示している。

(5) 式典等に関すること

入学式、卒業式は、厳粛に行われ、とても
感動的な式になっている。また、集会等への
臨み方も、式を運営する部署の職員を先頭に、
職員全体が生徒の中に入り込むことにより、
年を追うごとに、格段とよくなっている。本
校はよい方向に進みつつあるが、提出物を出
せること、集会にしっかりした態度で臨める
ことなど、あたりまえのことがあたりまえに
できることが重要なことはいまでもない。

(6) 研修の充実

不祥事防止に向け、モラルアップ委員会
を活性化し、職員参加型の研修会を実施した。
また、教育相談や学校評価、情報セキュリ
ティ等の内容を扱った研修会を実施するなど、
校内研修会は充実している。職員は皆、前向
きに取り組んでいる。昨年度は、定期考査中
に設定していたが、今年度は、福祉教養科職
員も参加できる月曜日または木曜日の放課後
に研修会を設定している。

5月11日（土）担任・副担の連携（若手
教員研修チーム）

5月27日（月）生徒理解

6月24日（月）不祥事防止に向けて

11月18日（月）学習指導について

11月26日（火）情報セキュリティ 不祥
事防止に向けて

1月20日（月）学校評価について

2月6日（木）不祥事防止に向けて

(7) PTA活動

PTA活動にサポーター制度を導入したこ
とにより、PTA役員、理事以外の保護者が、
学校行事に参加していただけるようになりつ
つある。保護者に学校に足を運んでもらうこ
と、保護者とともに、また地域とともに連携
して、生徒を育てていく体制を整えたい。

いきたい。

今後も、学校だよりを配付することにより、本
校のありのままのようすや生徒の活動等を積極的
に伝え、保護者、地域の方々の理解を得ながら。
連携して、本校生徒を育てていく。

今後も地域の行事に参加することにより、教育
実践の周知を図っていく。

(4) プリント等の配付・回収

学校からの文書やプリントが、保護者のもとに
届かず、保護者が知らなかったというケースが多
い。配付文書をホームページに掲載することによ
り、少しは改善されたものの、実際にホームペー
ジを閲覧してくれる家庭では、きちんとプリント
が届いているものと推察される。

職員の関わり方次第で、アンケート等の回収率
が変わる（よくなる）ことがわかったことの意味
は大きい。

(5) 式典等に関すること

今後も、よい方向になりつつある生徒の式典等
への臨み方を継続していくことができようにし
たい。

(6) 研修の充実

職員にとって、研修会を行うことはとても重要
であることはいまでもない。本校では、職員の
取組もよく、感想を読むと、研修がとても意味の
あることがうかがえる。

次年度は、「教育相談」、「不祥事防止」、「いじ
め防止」、「情報セキュリティ（不祥事防止を含
む）」、「学校評価」をテーマに企画し、実施する。

(7) PTA活動

サポーター制度を導入し、学校の教育活動に参
加していただける保護者が増えたことはよろこば
しいことであるが、さらに保護者が学校に関わっ
てくれるよう働きかけをしていきたい。

学 習 指 導	(1) 学び直し 普通科1年次の、英語、数学及び地理 A で学び直しを取り入れている。また、総合的な学習の時間を活用し、やったらできたという手応えを感じさせるとともに、机に向かって集中し、自学自習の姿勢をみにつけさせようと試みている。 (2) 授業形態の工夫 多くの科目で少人数指導や TT を導入している。今後も教室の数や職員の人数の許す限り、授業形態を工夫し、生徒にとってわかる授業を展開していく。 (3) 授業力の向上 若手職員中心に近隣の小中学校、特別支援学校を訪問することにより、授業力の向上に努めている。授業練磨の公開日をはじめとして、本校職員は、授業をみせることに対する抵抗感はない。できればもう少し、他の職員の授業を参観しあい、意見を交わす場を設定してほしいと考える。 「生徒は、授業に意欲的に取り組んでいる」と回答した職員の割合は、昨年度より 8.5 ポイント増加し 46.2 %となった。しかし、生徒の割合は 64.1 %、保護者は 68.3 %であり、職員と、生徒、保護者の感じ方に開きがみられる。 「学習習慣が身につくにつつある」と回答した割合は、昨年度と比べ、職員は 5.4 ポイント、生徒は 3.4 ポイント、保護者は 0.3 ポイント増加し、それぞれ、23.1 %、36.0 %、45.3 %という結果である。いずれも高い数値とはいえないが、職員と生徒、保護者の感じ方に開きがみられる。 「学力は向上しつつある」と回答した職員、生徒、保護者の割合は、44.2 %、41.4 %、56.8 %であり、昨年度との変化はみられない。 「本校の職員は、教材や指導方法を工夫し、わかりやすい授業を行っている」と回答した職員の割合は 84.6 %であり、昨年度より約 10 ポイント減少している。保護者の割合は 68.166.3 %、生徒は 41.6 %であり、昨年度との変化はみられない。職員、生徒、保護者で感じ方に開きがみられる。わかりやすい 生徒用アンケートの18～20は、昨年度から設定した問いである。「板書された文字は読みやすい」と回答した生徒は53.8%、「先生の声は聞きやすく、話のスピードは適切である」は52.0%、「説明内容は理解しやすい」は45.4%、「授業内容のレベルは適切である」は、59.4%であり、いずれも昨年度との変化はみられない。	(1) 学び直し 「学び直し」を展開していることに対して、保護者の理解は得られている。ただ単に、学び直しを行うのではなく、本校生徒に何を教えたいのかについて、各教科でさらに検討し、本校における「学び直し」の位置づけについて。全職員の共通理解が必要である。 (2) 授業形態の工夫 今後も教室の数や職員の人数の許す限り、授業形態を工夫し、生徒にとってわかる授業を展開していく。 (3) 授業力の向上 公開授業は、教師の授業力を高めるために、とても有効なものである。また、同僚の授業をみたり、他校に出向き、授業参観することも大切なことである。本校で、公開授業を行った際、保護者にもっと来校してもらう手立てを考えたい。 生徒が学習意欲をもって授業に臨み、学習習慣を身につけ、学力を向上させることは、本校の大きな課題である。生徒の授業への取組、学習習慣、学力の定着度について、肯定的に考える職員の割合が増加しつつある。 普通科生徒・保護者に比べ、肯定的にとらえている福祉教養科生徒・保護者の割合が高いことのは、取りも直さず、目的意識の違いである。普通科生徒にいかにも目的意識をもたせることができるかがポイントであり、課題といえる。 工夫したわかりやすい授業についての感じ方では、職員と生徒のギャップが激しい。 この項目の結果は、ある程度参考にはなるが、本来、このようにまとめた形ではなく、教科ごとに個別に聞くべき問いと考える。 授業評価アンケートについては、職員にアンケートをとり、それをまとめたものを配付した。来年度は、「授業評価アンケート」を作成し、任意の職員が実施できる方向で進めたいと考える。
生 徒 指 導	(1) 頭髪・服装等の指導 登下校時やホームルーム、授業時に整容（頭髪・服装）指導、遅刻指導、交通安全指導を行うとともに、ルール・マナーを守る指導を行った。 「本校は、ルール・マナーを守る指導をしっかりと行っている」と回答した職員の割合は 90.4 %、保護者は 75.5 %であり、昨年度との変化はみられない。また、「ルール・マナーを守るよう心がけている」と回答した生徒は 82.4 %である。 「本校は、整容指導をしっかりと行っている」と回答した職員、保護者の割合はそれぞれ、94.2 %、78.9 %であり、昨年度と比べると微増である。「頭髪・服装を整えるよう心が	(1) 頭髪・服装等の指導 本校で行っているルール・マナーを守る指導、整容指導、遅刻指導については、ほとんどの職員は、しっかりと指導をしていると考えており、保護者の理解も得られている結果がでている。また、生徒の多くは、守るよう心がけていると回答している。保護者から寄せられた貴重なご意見にしっかりと耳を傾けながら、今後の生徒指導を展開していきたい。

	けている」と回答した生徒は77.2 %である。 「本校は、遅刻指導をしっかりと行っている」と回答した職員の割合は86.5 %，保護者は80.7 %である。また、「遅刻をしないように心がけている」と回答した生徒は83.2 %である。 1年生の1学期の遅刻回数の合計は367，2学期は855，2年生は1504，1780，3年生は1205，2185である。遅刻する生徒が固定化されていると考えられるものの，どのように対策を立て，回数を減らしていくかは，本校の大きな課題といえる。 本校で行っているルール/マナーを守る指導，整容指導，遅刻指導については，保護者の理解が得られている結果がでている。保護者から出された貴重なご意見にしっかりと耳を傾けながら，今後の生徒指導を展開していきたい。 (2) 保護者と連携した指導 サポーター制度を導入したことにより，多くの保護者に協力していただき，職員と連携した登下校指導を行った。授業のようすや登下校の状況を保護者にみてもらうことは，とても重要なことである。 (3) 教育相談体制の充実 生徒理解の研修会を充実させるとともに，定期的な個人面談の実施と，スクールカウンセラー，養護教諭，学級担任等，連携した教育相談体制の充実を図った。 「本校は，生徒が相談しやすい雰囲気がある」と回答した職員の割合は78.8 %であり，昨年度と比べ7.8ポイント増加している。保護者は昨年度とほとんど変化はなく60.5 %であった。「困ったときに相談できる先生がいる」と回答した生徒は41.0 %にとどまっている。職員と生徒の感じ方に大きな開きがみられる。 「本校の職員は，生徒一人一人をよく理解するよう努めている」と回答した職員，生徒，保護者の割合はそれぞれ，97.0 %，39.0 %，69.7 %であり，職員と生徒で感じ方に大きな開きがみられる。	(2) 保護者と連携した指導 保護者の協力なしに，教育活動は成り立たない。サポーター制度の導入により，登下校指導等に参加していただき，生徒のようすをみてもらう機会ができてきたことはよろこばしいことである。 (3) 教育相談体制の充実 職員は，本校は相談しやすい雰囲気があると考えているが，生徒はそう考えていない。生徒一人一人に目を向けながら，教育相談委員の存在を周知するとともに，定期的に面談週間を設定するなど，相談しやすい，相談できる校内体制を整備したい 職員が生徒一人一人を理解するよう努めていると考えているが，生徒の多くはそうのように考えていない。我々職員は問題行動を起こす生徒の背景を理解しようとする努力や，反抗的な言動を繰り返す生徒への言葉がけや指導の方法も工夫し，柔軟に対応することも学ぶ必要がある，
キャリア教育	(1) 組織的・計画的な進路指導 3年間を見通した進路指導計画を立て，それにしたがって，学年別・分野別に進路説明会等を行っている。各学年とも，外部講師を招き，しっかりとキャリア教育が進められている。各講義や講演の意義について，担任に3年間の進路指導の流れの中で，再確認してもらうとともに，実施前に生徒に対して，その趣旨を伝えている。 「生徒は，進路実現のために努力している」と回答した職員は，昨年度と比べ，38.6ポイント増加し59.6 %であった。保護者は3ポイント増加し64.4 %，生徒は4ポイント増加し62.3 %である。学年別にみると，努力していると回答した1年生は61.9 %，2年生は50.4 %，3年生は75.4 %，また学科別みると，普通科生徒は59.7 %，福祉教養科は77.0 %である。 2年生が低い割合となっていること，また福祉教養科生徒の方が高くなっていることは，昨年度も同様であった。 統合3年目，学校行事への取り組み方等と同様に，進路面でも，生徒の取組を評価する職員が増えている。職員が団結して指導することにより，本校が，今後もよい方向へ進ん	(1) 組織的・計画的な進路指導 「みえる進路，あきらめない進路」をモットーに，しっかりと3年間の進路計画を立て，きめ細かなキャリア教育を行っているところである。 2月6日現在，進路決定率が81.7 %である。これは，進路指導部を中心に，職員が生徒と向き合いながら，指導してきたたまものである。 今後，本校生徒が進路実現できるよう，しっかりと基礎学力を身につけさせていく。また，生活管理・健康管理の意識を保護者にも生徒にも持たせ，欠席や遅刻を減らし，学校を中心にした生活を送ることを徹底して指導する必要がある。

	でいくと確信できる。 (2) 保護者に対する説明 ホームページ等を活用し、本校の進路指導のようすを知らしめているところである。 「本校はしっかりとした進路指導を行っている」と回答した職員の割合は、100 %である。すべての職員が、進路指導部のきめ細かな指導に理解を示している。とてもすばらしいことである。 「本校の進路指導は充実している」と回答した生徒、保護者の割合は53.0 %、68.9 %であり、昨年度と比べ、それぞれ、7.4 ポイント、2.2 ポイント増加している。	(2) 保護者に対する説明 P T A総会がおこなわれた5月11日に実施した進路講演会は、多くの保護者が参加し、とても好評であった。いろいろな機会をとおして、本校がおこなっているきめ細かな進路指導を保護者に知らしめたい。今後も進路指導に関する記事を積極的に、ホームページに掲載していく。
特色ある取り組み	福祉教育拠点校としての役割を自覚し、県内の福祉教育の推進に努める。福祉教養科はもとより、普通科生徒も含めて、学校全体で充実した福祉教育を行うことにより、福祉マインドを育てる。校訓である、「共生」の心をもつ生徒の育成につながるとともに、「向学」、「自立」にもつながっていく。 (1) 福祉マインドの育成 ボランティアセンターが機能し、ボランティア部、JRC 部が活性化しつつある。普通科生徒にもボランティア活動が浸透しつつある。 普通科生徒全員が1年次に「社会福祉基礎」を週2時間学ぶことは、意味のあることである。多くの生徒が、福祉に関心をもつことができた」と回答している。 2年次の家庭科では、現在の自分をみつめさせるとともに、将来、親としての在り方を考えさせている。今年度で3年目となる「赤ちゃんとのふれあい体験」では、生徒の取組もよく、参加した赤ちゃんの保護者の感想も「やってよかった」というものがほとんどである。異年齢交流をすることで、命の大切さを体感し、将来的な親力向上につながる。そして、それはそのまま福祉マインドの育成につながっているものと考えている。また、この事業に、職員のほとんどが理解を示し、協力体制が構築された。担任は、赤ちゃんの出迎えから、片付けまで一緒に行動し、普段ではみられない生徒の表情、ようすを目にすることができた。N P Oスタッフの話を聞き、地域の子育て支援についての話を聞くことができたことも生徒にとって有意義であった。 福祉分野に強い興味を持った生徒は、3年次「福祉コース」に進み、しっかりと「福祉」の専門的な学習を行う。普通コースに進んだ生徒も、3年次の家庭科「ライフプランニング」で、さらに共生の心を身につけることができる。 このように、現在も3年間にわたり、共生の心、福祉マインドの育成に努めているが、今後は、いろいろな教科・科目で「福祉」分野の内容を取り扱うことで、生徒が変わり（よくなり）、学校としての特色がでてくるものと思われる。 今後、本校がよい方向にさらにはばたくためには、他の学校の普通科との違いをみせつけなければならないだろう。 (2) 福祉教養科の充実 教育内容を充実させ、モチベーションを維持させる工夫をしながら、長期休業中の対策授業、対策模試の受験（年4回）を行うことにより、平成24年度の介護福祉士国家試験の合格率は88.9 %と好成績を修めることができた。平成25年度もさらに合格率が上がる	(1) 福祉マインドの育成 ボランティア活動を充実させることは、福祉マインドを育成することにつながる。今後、普通科生徒にどれだけ広められるかが課題である。 「福祉マインド」を育成するために実施している教育課程や取組をさらに検討し、充実したものにしていく。 (2) 福祉教養科の充実 今年度から、福祉教育拠点校となる本校にとって、福祉教養科の在り方（授業やさまざまな活動・取組、国家試験合格率等）は、重要な鍵をにぎる。積極的な情報発信をし、地域や保護者の理解を得るとともに、普通科を含め、学校全体で福祉教育を推進していく。

よう、始業前朝学習等を実施している。
また、介護福祉士を目指す本校教育の現状の理解を得るため、授業や介護実習報告会等を広く公開し、積極的な情報発信に努めている。
3年間で60日を超す介護実習がスムーズに行われることを目的として、地域の施設の担当者 را 招き、介護実習についての綿密な打合せを行った。

定期的な学科集会や介護実習報告会、福祉教養科全生徒が活動する場面を設定することにより、よき伝統を引き継ぐとともに、学年の枠を越えた絆をつくっている。

福祉教養科全学年生徒保護者に対して、保護者会を行うことにより、教育活動について説明し、理解と協力を得ながら、連携して生徒を育てている。

福祉教養科生徒は、産業教育フェア、こども祭り、体験入学等で、一般の方や中学生の、車いす試乗体験や点字体験を手伝っている。

(3) 地域と歩む学校

夏休み中に、県立学校開放講座「親子でまなぼう」を実施した。(昨年度は「親子であそぼう」を実施)対象は、近隣に住む親子であるが、家庭科や福祉、図書等の専門を広く還元し、興味をもってもらうことを目的としている。参加した児童・保護者の感想も好評であるため、今後も魅力ある講座を展開していくつもりである。

(4) 福祉教育拠点校の取組

ア 大学・専門学校との連携

大学や山専門学校から講師を招き、「福祉の中の保育の役割」、「美容福祉」をテーマにした特別授業を行っており、広く公開している。

イ 他県との交流

学校を訪問し合ったり、研究会を開催したりするなど、他県の福祉関連高校と情報交換する機会を設け、千葉県福祉教育委推進に務めている。

ウ 指導力の向上

県内の福祉関連高校職員が研修する場を積極的に設定し、県全体の福祉科職員の指導力向上を目指している。

エ 生徒の交流

福祉関連高校で福祉を学ぶ生徒が、「福祉」についての意見を交わす場を設定することにより、生徒のモチベーションを高めている。

オ 広報誌の作成

千葉県福祉・人材確保対策事業の一つとして、福祉教育部会で提案し、予算化される。

昨年度、今年度と、広報誌「福祉をまなぼう」を作成し、県内の公立中学校をはじめ、関係機関に送付し、「福祉」についての広報に努めている。

(3) 地域と歩む学校

今後も県立学校開放講座をとおして、さらに教科・科目のおもしろさを伝えていきたい。

(4) 福祉教育拠点校の取組

今年度から、福祉教育拠点校となり、県内の福祉教育発展という重責を担っている。県内の福祉関連高等学校の取組や指導案が事務局である本校に集まり、それをホームページ等に掲載することにより、だれもが情報を共有し、活用できる仕組みをつくりたい。他県の情報を収集し、さらにできる取組、すべき取組を検討し、実施していきたい。

学校評価の公表について (手段・時期等)	・アンケート集計結果をホームページに掲載（平成26年1月） ・自己評価結果，学校関係者評価をホームページに掲載（2月） ・保護者あて文書配付（3月）
-------------------------	--

領域	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ
学校経営	(1) 安全・安心な学校 危機管理に関して，生徒が危険に注意をはらっていると考える職員と，自分は注意をはらっていると考える生徒の割合に相当の差がみられるのは，職員が生徒のことをよくみていることに他ならない。職員と生徒の感じ方に開きがあるのは当たり前のことである。 (2) 学校行事・部活動 生徒の学校行事に対する取組方を肯定的に評価している職員が多く，学校がよい方向に向かっていくことがわかる。 (3) 情報発信 ホームページ，校長ブログはよくみている。ほぼ毎日更新しているのはすばらしいことである。学校のようによくわかる。 (4) プリント等の配付・回収 高校における保護者からのアンケートの回収等は，小中学校と違い，大変なことだと考えるが，今年度の保護者アンケートの回収率が84.2%となったことはすばらしいことである。 (5) 式典等に関すること 卒業式等，とても雰囲気の良い中で，式が進行している。 (6) 研修の充実 充実した研修会が行われていることがうかがえる。 (7) PTA活動 サポーター制度導入など，学校として前向きに取り組んでいる姿がみられる。	(1) 安全・安心な学校 施設・設備の管理保全のための定期的な安全点検は適切に行われている。 今後さらに，清掃活動やボランティア活動をとおして，生徒の意識を高揚させ，職員，生徒，保護者で環境美化に取り組んでいく。 情報モラル等を含めて，身の周りにある危険について，いろいろな機会をとおして，その危険性を生徒に伝えていく必要がある。 (2) 学校行事・部活動 職員のほとんどが，生徒の取組を評価している。今後は，その取組のすばらしさを生徒の伝え，自信をもたえることにより，達成感や成就感を感じさせたい。 (3) 情報発信 ホームページや校長ブログをほぼ毎日更新することにより，学校のように保護者，地域，受検生等に向け，発信している。アクセス数は着実に増加傾向にある。学校だより，学年通信，図書館だより，保健室だより等，さまざまな形で保護者，地域に発信し，連携・協力して生徒を育てていきたい。 (4) プリント等の配付・回収 保護者アンケートの回収率が，昨年度より21.9ポイント増加し，84.2%になった。職員の姿勢により，提出物の回収状況は大きく変わることがよくわかる結果であった。 来年度も保護者アンケートについては，封筒に入れて回収する方向で考えたい。 (5) 式典等に関すること 生徒に全校集会や式典に臨む姿勢について伝えてきたが，生徒は，よく理解して，それに応えてくれている。今後もいまの状態が続くよう指導し，見守っていきたい。 (6) 研修の充実 職員参加型の充実した研修会が行われているものと自負している。職員の研修への臨み方，話し合い方，感想等，どれをとっても，本心に真面目に取り組んでもらっており，とても意味のある場となっている。来年度も，さらに充実したものにしたい。 教育相談，情報セキュリティ（モラル），不祥事防止，いじめ防止，学校評価 (7) PTA活動 サポーター制度を導入し，保護者が教育活動に参加するようになりつつある。保護者が学校のことを，生徒のことを知らなければ，知る努力をしなければ，保護者からの適切な学校評価はなし得ない。
学習指導	(1) 学び直し 「学び直し」を実施してくれることは，中学校としてはありがたい。	(1) 学び直し 「学び直し」を展開していることに対して，保護者の理解は得られている。ただ単に，学び直しを行うのではなく，本校生徒に何を教えたいのかを，各教科でさらに検討する必要がある。また，職員が，自分の教科だけではなく，学校として何を教え，卒業させていくのかの共通理解が必要である。

	(2) 授業形態の工夫 今後も、授業形態を工夫することを継続してほしい。 (3) 授業力の向上 東部地区の中小高校が連携して、授業公開していけば、職員の授業力向上につながる。 職員が学力向上に向けて努力しているが、生徒にうまく伝わっていないのではないか。 「わかりやすい」の捉え方が、職員と生徒で開きがある。職員がどれだけ、生徒の方を向いていけるかが重要である。	(2) 授業形態の工夫 教室の数や職員の人数の許す限り、授業形態を工夫し、生徒にとってわかる授業を展開していく。 (3) 授業力の向上 今後も授業力向上に向けて、近隣の異校種のの学校同士で職員が研修する（受け入れてもらう）機会を設定していく。 公開授業のみならず、校内で研究授業の機会を増やし、授業をみせあい、意見を語り合う場を設定していく。
生徒指導	(1) 頭髪・服装等の指導 生徒に職員の想いが伝わるよう、継続して生徒に指導してほしい。 頭髪・服装については、落ち着いてきていると思うが、遅刻の指導を学校として厳しく行っている。時間を守るということは、社会人としての第一歩である。 登下校の自転車の乗り方等の注意が必要である。 女子のスカート丈が極端に短い生徒がいる。 (2) 保護者と連携した指導 サポーター制度が機能してきていることがうかがえる。 (3) 教育相談体制の充実 教育相談は重要であるため、今後も充実した相談を続けてほしい。	(1) 頭髪・服装等の指導 本校職員は、ルール・マナーを守る指導、頭髪・服装等の指導等をしっかり行っていると考えており、保護者の理解も得られている。守るよう心がけている生徒も多い。自転車の乗り方等については、機会あるごとに注意していく。また、女子のスカート丈についても注意することにより、身の周りにある危険を感じさせたい。 遅刻や欠席を繰り返す特定の生徒への指導を、学校をあげて取り組む必要がある。 (2) 保護者と連携した指導 サポーター制度が機能しつつあるが、さらに保護者が教育活動に参加してもらえるよう、働きかけをしていく。 (3) 教育相談体制の充実 教育相談委員の周知に努め、気軽に相談できる環境づくりを今後も進めていく。
キャリア教育	(1) 組織的・計画的な進路指導 しっかりとした進路計画にしたがって、指導しているのがわかる。 「充実している」とは、どのような状態をいうのかがはっきりしないのではないか。 職員が、生徒に向けて自分を語ることが大切である。また、生徒同士で進路について語らせることも重要である。 キャリア教育は、家庭の力が大きい。 (2) 保護者に対する説明 保護者へのPRの仕方は重要である。	(1) 組織的・計画的な進路指導 きめ細かな進路指導を展開しているところであるが、次年度に向けて、年間計画を検討し、松戸向陽高校ならではの進路指導を確立していく。 充実している状態とはどのようなものかをはっきりと示していく。 保護者に適正な学校評価を行っていただけるように、また、学校と連携して進路指導を行っていくよう、学校で行われている進路指導について、広く知らしめる努力をする。 (2) 保護者に対する説明 PTA総会時に行った進路説明会は好評であった。今後も、このような機会を増やすとともに、進路だよりを発行することやホームページに進路に関する内容を多く載せることにより、本校の行っているきめ細かな進路指導を知らしめていく。
特色ある取り組み	(1) 福祉マインドの育成 福祉マインドを育成するために、共生の心をもつ生徒を育てるために、実にさまざまな活動をしていることがわかる。 (2) 福祉教養科の充実 介護実習報告会をみても、福祉教養科生徒ががんばっていることがよくわかる。 (3) 地域と歩む学校 県立学校開放講座の内容はとてもよい。今後も継続してほしい。 (4) 福祉教育拠点校の取組 昨年度、今年度と2年連続でつくられた「高校で福祉を学ぼう」はとてもよくできていた。県内の福祉教育を推進してほしい。	(1) 福祉マインドの育成 福祉マインドを育成するための特色ある教育課程、行事等を展開しているが、さらに検証し、よりよいものとしていきたい。 (2) 福祉教養科の充実 学校全体で福祉教育を推進する上で、また、本校が福祉教育拠点校の役割を果たす上で、福祉教養科生徒の存在、そしてその取組やがんばりは重要な要素となる。今後もモチベーションを維持・向上させる仕掛けを行いたい。 (3) 地域と歩む学校 県立学校開放講座を充実させ、学問のおもしろさを親子に伝えていきたい。さらに開放講座以外で、地域と連携できる行事や取組を検討し、実施していきたい。 (4) 福祉教育拠点校の取組 県内の福祉教育を推進するため、さまざまな取組を試みている。他県の情報等も収集し、県内の福祉教育関連高校で情報を共有していきたい。